

韓国における学校を基盤とした教育福祉政策の形成 と展開に関する研究：社会移動と社会関係資本から みた「教育」と「福祉」の効果的な連携

金, 美連

<https://hdl.handle.net/2324/4110426>

出版情報：Kyushu University, 2020, 博士（教育学）, 課程博士

バージョン：

権利関係：Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (3)

氏名	金美連			
論文名	韓国における学校を基盤とした教育福祉政策の形成と展開に関する研究 —社会移動と社会関係資本からみた「教育」と「福祉」の効果的な連携—			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	竹熊尚夫
	副査	九州大学	教授	元兼正浩
	副査	九州大学	准教授	岡 幸江
	副査	九州大学	教授	高野和良
	副査	文部科学省	総合教育政策局外国調査係	田中光晴

論文審査の結果の要旨

本論文は韓国における学校を基盤として行われる教育福祉政策に焦点を当て、「教育」と「福祉」という複雑な関係性を、政策と実施の政治性と社会的ニーズ、機会均等理念に見られる量と質、中央地方と現場での取組や協働の実態、という包括的な視座によって解明しようとした優れた論考である。教育格差の是正に関する従来の研究に対して、本論文ではまず、教育福祉政策の特徴を捉えるため、韓国の文脈に則して「個人の教育機会保障型」と「社会関係資本醸成型」という二つの軸を分析アプローチとして設定することにより、それぞれのアプローチによる政策が持つ可能性や限界を明らかにし、「教育」と「福祉」の連携を通じた教育格差是正のための施策のあり方を探っている。

次に、教育を通じた社会移動を重視してきた韓国の文脈を踏まえつつ、制度整備が急速に進められた要因を選挙や新自由主義の影響から検証し、政策分析にあたっては、政策目的および対象範囲による諸政策の類型化に挑み、政策の特徴やその方向性を捉えるための独自の枠組みを提示しており、その変化を的確に捉えたことは高く評価できる。

また、本研究では政策分析にとどまらず、政策理念の地方への浸透あるいは対応のプロセスをも検証に加え、更に学校現場での政策の実施状況の把握を試み、韓国の教育福祉政策が実施される過程までを含めた全体像としてその関連構造を明らかにすることに成功している。その中で多様な人的・組織的ネットワークの蓄積や信頼関係といった社会関係資本の形成に着目することで、現場から生じた「教育」と「福祉」の将来的な有機的連携への展開可能性も提示しており、有益な成果と評価できる。

以上のように本論文の成果は、韓国の事例に焦点を当てたものであるが、分析の視点を確立し、政策の全体像を俯瞰する中で時代毎の政策の特徴を捉えることができしており、諸外国における政策の解明にも資するものであると評価できる。また「教育」と「福祉」の連携のあり方に、新たな政策的・実践的な知見をもたらすものといえる。よって、本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。